

令和5年度第1回横須賀市自殺対策推進協議会会議録

- ・日 時： 令和5年6月9日（金）15時～17時
- ・場 所： 横須賀市生涯学習センター 第1学習室

- ・出席者： 大滝紀宏、奥原孝幸、恩田一弘、笈修一、檜福宏征、河野伸子、
君島富美江、金原健一郎、工藤幸久、島貫修二、玉井秀直、土田賢一、
中島直行、平岩仲康、藤尾聡允、星野洋司（前島構成員代理）、
本多俊雄、渡邊春彦、渡辺大雄、（敬称略、五十音順）
欠席4名

- ・事務局： 民生局健康部長： 夏目久也
民生局健康部 保健所保健予防課長： 小菅俊彦
民生局健康部 保健所保健予防課主査： 増田浩子
民生局健康部 保健所保健予防課主任： 菅祐太郎
民生局健康部 保健所保健予防課主任： 鍛治美和子

1 開 会

- ・傍聴5名の報告
- ・健康部長より挨拶
- ・構成員からの自己紹介
- ・座長、副座長の選任
河野構成員より座長として大滝構成員を推薦。大滝構成員承諾、他構成員より異議なし。
大滝座長より副座長として奥原構成員を指名。奥原構成員承諾、他構成員より異議なし。
- ・選任された大滝座長、奥原副座長より挨拶

2 議 事（議事進行：大滝座長）

〈大滝座長〉

まず始めに市民公募の笈構成員から、本協議会への想いについて一言お願いしたい。

〈笈構成員〉

現役時代はがむしゃらに仕事をしていましたが、引退してから地域社会に貢献したいという想いで様々な活動をしており、特に自殺の対策は気にかかっている。現役時代、部下の自殺に直面した経験があり、そのときに何で気がついてあげられなかったのかと自分を責め、今もその想いは残っている。話しやすい環境を作りたいと思い、心理カウンセラーの資格もとり、引退してからいろいろな方と話しをするようになった。小さなところから芽を摘んで、こんなことでなぜ、という残念なことをないようにしたい。ぜひ会議の中で役に立てる意見が言えたらと思う。

（1）横須賀市の自殺の現状について

1）横須賀市の自殺の状況

〈大滝座長〉

議事1について、事務局から説明をお願いしたい。

〈奥原副座長〉

自身は LINE をよく利用するが、若者では LINE はあまり使われていない。Twitter や Instagram を使い身近な人とやり取りをしている状況。

〈星野洋司・前島構成員代理〉

中学生は LINE でやり取りをしていることが多いと思う。子供たちの世界なので掴みきれないところもあるが、LINE での情報共有は非常に多いと思う。

〈大滝座長〉

子供たちへどのように情報を伝えていくのか、コミュニケーションを図るのかを考えた際に、大人が子供たちのコミュニティを把握できていないことが多いので、実態を調査し対策をしていかなければならない。子供たちの利用頻度の低いツールを使い対策を行っても、誰も入ってこない。この問題は、今後事務局で調査をお願いしたい。

〈君島構成員〉

高齢者いきいきサロンでの連絡は LINE で行っている。子育てサロンでは Instagram で連絡事項や写真の共有、発信を行っており、相談については、代表者のアカウントで DM を使用し行っている。

〈奥原副座長〉

高校生は Twitter や Instagram の利用頻度が高く、Facebook はほぼ使われていない印象。

〈大滝座長〉

自殺者数を全国的にみると増えている。一方で横須賀市は減少傾向にあり、様々な対策が功を奏している可能性はあるが、楽観できない数字である。女性の自殺者数も増えており、若者の自殺者数も減ってはいない。

コロナ禍でコミュニケーションを閉ざされてしまい自殺者が増えていると感じている。個人的に心配なことは、今後コロナの問題がクリアしても、スタートラインで躓いた人たちがそのまま置いて行かれてしまうのではないかと思う。コロナ禍の自殺問題が後々尾を引くのではないか。就職氷河期のころ就職できなかった人たちが、再チャレンジできないまま社会に参加できない状況があったことから、今躓いてしまっている人たちも再チャレンジやコミュニケーションの機会を失ってしまうのではないかと心配している。

2) 横須賀市の自殺未遂者の状況

〈大滝座長〉

自殺未遂者対策を行っているにもかかわらず、自損患者の緊急搬送数が少し増えている。横須賀市は自損患者の 9 割以上が横須賀共済病院とうわまち病院に搬送されており、両病院の協力により自殺未遂者対策をするには非常に恵まれた医療環境である。

意見等あれば伺いたい。

〈河野構成員〉

15 ページ横須賀市の自殺未遂者の状況①より、令和 4 年の同意率は 34%に減少しているという結果が出ている。これについては、当院での同意をどのように得ていくか、支援に繋げていくかが課題であると思う。改めて実態を把握し、現場にて検討していきたい。

〈大滝座長〉

搬送された人に対して、自殺未遂者支援事業について保健所で作成した資料を現場の看

看護師が配布し説明しているのか。

〈河野構成員〉

当院では救急搬送されて救命救急センターに入院になった全患者に対し、主には看護師が支援の体制について早期に説明を行い、支援への同意を頂くよう働きかけを行っている。しかし、資料によると同意率が減少傾向にあるので当院でも再度検討していきたいと考えている。

3) 横須賀市こころの健康に関する市民意識調査の結果

〈大滝座長〉

横須賀市こころの健康に関する市民意識調査を行ったところ、前回より厳しい結果が出ている。19 ページより、自殺を考えたことがある人は第1期 13.2%→第2期 14.7%に増加したという結果から生きづらくなっているのではないかと強く感じた。今回計画を策定するにあたり、市民意識調査の結果にどのように応えていくのかがテーマではないか。

市民意識調査の結果に意見等あれば伺いたい。

〈筧構成員〉

少し戻り、横須賀市の自殺の状況のまとめの資料では、高齢者の特徴はないように読み取れる。一方8ページによると、60歳以上の高齢者の自殺割合が高いことが読み取れる。私自身の認知症の活動からも、高齢者はSNSを利用できない人が多いと感じている。相談については、19ページに記載されている「横須賀こころの電話」や「よこすか心のホットライン」が利用しやすいのではないと思う。独居の高齢者では、電話も掛けられず、SNSも利用できずに一人で考え込んでしまう場合も多々ある。独居の高齢者へのフォローについても何か策はないかと考えている。

〈大滝座長〉

高齢者の自殺数も減っていない。独居の方のみならず同居家族がいる方も自殺者がいる。従来の手法も含め何かしらアプローチが必要。SNSだけでなく、今までの手法も忘れずに活用していく必要がある。

〈君島構成員〉

独居又は二人暮らしの人達の自宅死亡数は増えている。民生委員だけでは訪問しきれないため、横須賀市では社会福祉推進員やボランティアなどの協力者による見守り訪問や支えあいに力を入れている。男性の高齢者では周囲と接触がない人もいるため、民生委員にも情報が入らず力及ばずといった場合がある。

〈大滝座長〉

ケアマネジャーとして高齢者との関わりの多い玉井構成員からもお話伺いたい。

〈玉井構成員〉

我々は要介護状態の方と関わることが多い。要介護状態になると、今まで自分でできていたことができなくなる、誰かの手を借りないと生活が難しい、といったことから落胆したり閉塞的になる人もいる。良かれと思い周囲が外へ出ていくよう声をかけても、本人がそのペースに付いていけなくなり置いて行かれた感を感じてしまったり、自殺を考えてしまうといった事例もある。人と関われる環境作りも大事だが、若者と高齢者ではペースが異なることを理解し、高齢者が付いていけるペースを考え支援していくことが大事。

〈大滝座長〉

要介護状態でなくても、その人の立場に立った関わり方や支援が必要。
生活安全課からもお話ししたい。

〈本多構成員〉

横須賀市では独居の方（変死体）の取り扱いが非常に多い。高齢者に絞ると、介護疲れや家族とそりが合わないといったことから独居となり、遠方から訪ねて来た親族により自死や病気による孤独死を発見されることが度々ある。

高齢者に限らず自殺未遂では、23 条通報で保健所と連携し医療機関に引き継ぐことを多々行っている。自殺未遂者が入院できずに一人の家に帰る場合もあるので警察でも職員が話を聞いたりしている。ケアマネジャーが毎日みることはできない、自殺願望はあるという状況で、警察が保護をし続けることは難しいが、現場の警察官も日頃から様々な機関と連絡を取り合いながら努力している。力になりきれないことに歯がゆさを感じている。自殺未遂者はうつ病になっていたり、話が聞けない状態になっていたりするため現場も戸惑うことが多いが、今回の議会の専門的な情報を現場に還元していきたい。

〈大滝座長〉

現場で直接関わっているととても辛い。自殺の事態に直面する人を一人でも減らしていくことが大事。

(2) 第 1 期横須賀市自殺対策計画の達成状況及び暫定評価について

〈大滝座長〉

議事 2 について、事務局から説明をお願いしたい。

〈事務局：菅〉

※資料 2 を用い説明。

〈大滝座長〉

自殺死亡率の目標は達成し、女性の自殺者は一時的な増加にとどまっている。しかし、多くの人が自殺により亡くなっている。

自殺未遂者数が増加している、女性や若年層の 1 年以内に自殺を考えたことがある人が増加している、主婦や学生の自殺者が増加している、この 3 つの大きなリスク要因が残っている。

資料について、意見等あれば伺いたい。

〈恩田構成員〉

ハローワークでは横須賀市の生活福祉課との連携で生活保護受給者の就労支援を行っている。自殺未遂者を見ると無職の人が多く感じ、生活困窮も自殺の要因になっていると思う。生活福祉課との連携はあるのか。

〈事務局：小菅〉

生活困窮者については、自殺未遂や自殺願望の相談を電話にて受けることがある。自殺をしたい理由をヒアリングし、生活困窮が理由であれば生活福祉課に同行したり、事前に同課に情報提供する等の連携を図っている。本市の自殺未遂者は無職の女性が多く、又一人暮らしではなく家族と暮らしている人が多いため、生活保護に該当しない場合が多い。女性の自殺未遂の理由として、家族関係をあげている人が多い現状。

〈大滝座長〉

色々な視点のアプローチが大事。

〈玉井構成員〉

45 ページ横須賀市自殺対策計画の取組み評価より、数値的な統計的な評価を行い今後の課題を分析していると思うが、質的な評価も必要ではないか。主婦や学生の自殺者が増加しているので目が向きやすい。しかし、先ほどは高齢者の話題もあがっており、自殺者数が減少しているから課題にあげなくていいことにはならないと思う。例えば、自殺の事例の経過をたどり未然に防ぐ策を見つけ出すなど質的な評価はあるのか。

〈大滝座長〉

策を考えるにあたり統計的な評価を主にせざるを得ないが、この協議会では個人個人にスポットをあてどのように生き、苦勞しているのか考えていきたいと思っている。以前、個人個人に思いを語ってもらう会を開催したこともある。玉井構成員の話はとても重要。統計ではわからない、人の生きざまや気持ちにいかに寄り添えるかが課題である。

事務局からもお話伺いたい。

〈事務局：小菅〉

高齢者では同居家族がいる人の自殺者や自殺未遂者も多い。話を伺うと、悩みを家族には相談できない、弱みを家族にみせられないという人が多い。これについて事務局でも対策を考えてはいるものの、中々解決策が見つからない。皆様からも是非ご提案いただきたい。

〈大滝座長〉

個別の事例については個人情報の問題が難しい。自殺未遂対策も数字の目的でなく、ひとりひとりにいかに寄り添えるかといった思いからスタートしている。一方、自分から声をあげない人の声が我々専門家集団でも気が付かないことがある。この問題を意識し対策を考えていかなければならない。

〈君島構成員〉

個人情報のため、地域の民児協の定例会だけで毎月事例を共有し討論している。しかし、様々な事情が絡まっているので、何か策を講じることによって解決するところまではなかなか至らない。

〈大滝座長〉

以前、事例検討会を行った。とても勉強になり次の対策に繋がったため、再度開催を検討したい。

(3) 第2期横須賀市自殺対策計画策定について

〈大滝座長〉

議事3について、事務局から説明をお願いしたい。

〈事務局：菅〉

※資料3を用い説明。

〈大滝座長〉

1つ目にスケジュール確認。

2つ目に、重要なテーマとして、若者と女性のそれぞれのテーマで意見交換するチームと総論について意見交換するチームの3つのチームをサブグループとして持ちディスカッションできないか。

3つ目に、次期計画の目標値に関して、事務局からは横須賀市の自殺死亡率について、12.2パーセントにするのはどうかといった提案もあったが、協議会で具体的に検討していきたい。

なお、2つ目の女性と子どもの自殺については、国の自殺対策においても特に重要視されている。日本は女性の自殺死亡率が世界（先進国の中で）で1、2を争うほど高い。この協議会でも重要視して考えていきたい。横須賀市は若者の数が少ないため数字としては目立たないが、若者の自殺も重要視していくべき問題と考えている。

また、この3つのテーマ以外は議論しないといったことではなく、先ほど構成員の方から意見があったテーマなども横須賀市自殺対策計画にすべて入っているの、引き続きサブグループで検討し協議会においても中心的な議題にしていくことができると思う。

数値については、現実離れした目標を掲げても良くないが、実現可能な最大限大きな目標を考えていくべきではないかと考えている。

それでは、事務局からテーマ別チームに関してチームの人選案があるのでご確認いただき意見等あれば伺いたい。令和4年度までは協議会の開催も難しく、計画の進行に大きな影響が出た。令和5年度から色々な会が再開し始めている。例えば、周産期メンタルヘルスについて考える会の再開することとし、市役所と周産期に関わる産婦人科医、小児科医、精神科医が集まりディスカッションを行うことができた。これからは、この協議会でも会議を重ねていけるとよいと思う。

〈奥原副座長〉

大規模な会議では発言を遠慮してしまうため、小規模の会議で発言の場があることは個人的にはありがたい。数値目標で第2期は3パーセントでいいが、以降3パーセントずつ減らしていくのは数値が下がってくるとなかなか難しくなるのではないかなと思う。今後5年は目標に向け頑張っていきたい。

〈大滝座長〉

他にサブグループチーム分けの資料をご覧いただいて、意見等あれば伺いたい。

〈河野構成員〉

統計や国の政策の中に男性女性といった表現があるが、横須賀市は多様な性のあり方について全国に先立って様々な活動を行っていると聞いている。ターゲットになるのは女性ということになると思うが、自殺対策を踏まえた上で、チームや取り組みのネーミングとして女性という絞った内容ではなく、性の部分で広く配慮ある表現が考えられたら良いと思った。私は女性のグループに入っているようなので、今後はそのあたりも議論していきたい。

〈大滝座長〉

河野構成員の意見は当然の意見だと思う。人を女性男性で区別すること自体が適切な表現とは言えないとも思う。そのこともこの協議会でディスカッションしていただき、この会でも男性女性という視点ではないところで考えていかなければならないということも私自身も反省しながら考えたところです。貴重なご意見ありがとうございました。

〈工藤構成員〉

計画の構成について。34ページより、自殺を考えた理由で第2期は勤務問題が大幅に増加していることが読み取れる。勤務問題に関する自殺対策としてメンタルヘルスもある

が、職場でのハラスメントの対策も必要ではないか。メンタルヘルスは受ける側がメインになっている。経営者の意識（パワーハラスメント、セクシャルハラスメント）を変えていくための啓蒙が必要ではないか。県が未病対策を行っている。私共の団体も健康経営という観点で、経営者も病気になる前の段階から従業員に対する健康維持を考えていこうとする取り組みを行っている。自殺対策推進の中で、経営者に対する取り組みも検討しているといいと思う。

〈大滝座長〉

貴重な意見をありがとうございます。職場のパワーハラスメント、セクシャルハラスメントは表に見えづらく非常に職員を追い込んでしまう場合がある。このことを経営者は考えていかなければならない。この会議の中でも例えば総論チームの中などに入れて経営者に啓発できるようなことも話をさせていただければと思います。

〈渡辺構成員〉

働く人の相談窓口を行い、多くの相談者に対応している。今年度から新たな取組として、経営者や管理職を対象としたセミナーを開催した。被害者ひとりひとりの相談に乗るだけでは追いつかないのではないかと危機を感じていた。そこで、新たな取組として管理者に研修を行った。そうして参加された方の話を聞いたところ、加害者は加害をしている認識がないということがわかり、改めて驚いていた。職場環境も大きな問題であるため、是非取り扱ってほしい。

〈大滝座長〉

加害者にどう理解してもらうか非常に悩ましい。悪気がない、自覚がないでは済まない問題。いじめの加害と被害などと同様の問題だと思う。今後、この協議会でも検討して行きたい。また何かあれば事務局に申し出るようお願いいたします。

3 その他

〈事務局：増田〉

令和5年3月29日、相談体制強化のためNPO法人あなたのいばしょと協定を結んだ。NPO法人あなたのいばしょでは、事務局では対応できない夜間の対応も含め、365日24時間チャット相談を受け付けていたため、本協定によって相談体制の強化を図った。

また、先日、小学校長会、中学校長会にて、NPO法人あなたのいばしょが行っている子供の孤独予防プログラムを説明させていただいたので、今後申し出があれば協力して普及啓発していきたいと考えている。

〈大滝座長〉

最後に奥原副座長に言葉をもらいたい。

〈奥原副座長〉

日々色々なことをしていると、自殺の事実から遠ざかってしまうように思うが、協議会で集まり議論すると身近なことだと再確認した。協力し合い、より良い横須賀市を目指していきたい。

4 事務局より連絡事項

〈事務局：小菅〉

今回はチーム会議の開催を9月までに日程調整いたします。

以上